

はだの 農業委員会だより

第113号
平成24年3月発行

編集・発行
秦野市農業委員会
〒257-8501 秦野市桜町一丁目3番2号
TEL 0463-82-9654
E-mail noui@city.hadano.kanagawa.jp



麴を混ぜ合わせる久保寺則子さん（戸川）



「じばさんず」でも、市内の農家が作った手作り味噌が販売されています。（下段）

万能自然派うまみ調味料として大ブームの塩麴。麴の酵素力で素材の旨さアップ！



おふくろの味を子どもたちへ

寒い2月、味噌づくりの本番を迎えました。温度管理が難しく、寒いこの時期が最適のため、市内の多くの農家で作られています。

味噌には秦野市内で収穫された津久井在来種の大豆が使われています。神奈川生まれの大豆を後世に残せるよう、また、日本の昔ながらの発酵技術を使った食文化を子供たちにも伝えたいと、寒い中、作業をしていました。

おもな内容

- 神奈川県農業委員大会など ----- 2
- 支援センター通信 ----- 3
- 特集 荒廃農地解消実践活動 ----- 4
- 特例適用農地の適正管理のお願い ----- 5
- 農家の声 ----- 6
- 相談コーナー 他 ----- 7
- はだの都市農業フォーラム2012他 ----- 8

東電福島第一原発事故による農業被害への対応に関する要望など4議案、TPP交渉参加表明に反対する特別決議を議決

平成23年度神奈川農業委員会大会



壇上で挨拶をする和田稔農業委員会会長

平成23年度神奈川農業委員会大会が11月11日に海老名市文化会館で開催され、秦野市の農業委員15名を含む

約750人が出席しました。大会では「東電福島第一原発事故による農業被害への対応に関する要望」「農地の保全・有効利用に関する要望」「担い手・経営対策に関する要望」「農業委員会活動の強化に関する申し合わせ」の4議案や「環太平洋連携協定(TPP)への交渉参加に反対する特別決議が賛成多数で議決されました。

中地方農業委員会連合会視察研修会

JAよこすか葉山農産物直売所などを視察

平成24年11月22日、JAよこすか葉山農産物直売所「すかなごっそ」と長井海の手公園「ソレイユの丘」などで中地方農業委員会連合会主催の視察研修会が行われ、秦野市農業委員12名が参加し、地産地消の取り

組みや地域との交流について視察しました。また、限られた時間でしたが、平塚市や伊勢原市などの農業委員との有意義な情報交換も行うことができ、今後の農業委員活動の参考となりました。

平成23年度農地利用状況調査結果

平成23年



11月から12月にかけて農業委員等が農地の利用状況調査を行いました。農地としての有効活用が特に求められる特例農地(納税猶予農地)や生産緑地指定されている農地を中心に調査しました。再調査が必要な農地については、適正管理を求める文書を送付し、再調査を実施する予定です。

調査農地		調査結果		
		良好	要再調査	所有者人数
筆数	2,415	2,369	46	17人
面積(a)	16,675	16,279	396	

ご協力ありがとうございました
賛助会費募金額
973,000円

1,946戸の農家の皆様にご賛同いただきました。県農業会議では、この貴重な財源を次の事業などに活用します。

- ★県農林業施策と予算についての建議
- ★税制対策と経営改善支援
- ★都市農政対策の実施
- ★農業生産指導対策
- ★農政情報活動
- ★各生産組合の地域農政活動への助成



「海外の農業情勢やTPPと日本の農業の再生」

中地方農業委員研修会に参加!

中地方農業委員会連合会の研修会が、2月3日(金)秦野市文化会館において実施され、秦野市からは農業委員9名が参加しました。(社)国際農業者交流協会理事(財)農政調査会会長の野中和雄氏により講演が行われ、参加した農業委員は、TPPによる農産物生産への影響などについて、熱心に聞いていました。





荒廃農地解消実践活動

収穫した大豆で味噌づくり

1月29日に荒廃農地解消市民ボランティア、東小学校の児童、地元の農業委員が参加し、収穫した大豆を使つての味噌作りが東公民館で行われました。

この大豆は、農業委員会が中心となり荒廃地を再生させ

きれいになりました

峠事業地

1月14日に農業委員、荒廃農地解消市民ボランティアや地元農業者の総勢23名が参加して、解消作業が行われました。

この農地は、今年の5月以降3回にわたり解消活動が実施され、ボランティアの協力もあり、再び農地として使えるようになりました。解消後は地元農家による果樹の作付けが行われる予定です。



いつでも作付けできる状態となりました



た農地で収穫した大豆を利用しており、小学生たちは、播種から夏の草むしり、収穫まで行った愛着のある大豆で思い思いに味噌を仕上げていました。
初めて味噌作りに参加した児童は、「自分が収穫した大豆で味噌ができて楽しいです。また来年も作ってみたいです。」と話していました。



麹と大豆を混ぜ合わせる参加者



市民農業塾 はばたけ農の担い手たち 5人が新規就農

はだの都市農業支援センターが平成18年度から開講している「はだの市民農業塾」が平成23年度も無事修了いたしました。家庭菜園から本格的な就農まで、多様な農業参画の希望形態に合わせた4コースの受講者47人が修了書を手にしました。

新規就農コースを修了した5名は、新たに農業者の仲間入りをしますので、農家の皆さんご指導をお願いします。

新規就農コース修了生紹介

応援よろしく
お願いします

平井 義秋
安心、安全な野菜づくりは生産工程の品質管理を確実に行うことだと思います。若者よ農業はおもしろいぞ！

平柳 雅彦
(就農地：羽根)
美味しい野菜を作り、土地の方々仲間として認めてもらえるよう頑張りたいです。お祭り好きです。

大竹 完治郎
(就農地：羽根)
非常にささやかですが、安全、安心の野菜を作って提供し、食料自給率の向上に寄与したい。

本村 悦子
(就農地：堀山下)
安心、安全で消費者に美味しいといわれる野菜を作っていきたいです。



飯田 貞夫
(就農地：寺山)
野菜作りには経験が必要不可欠であり、諸先輩の皆様からより多くの指導を受けたいと思います。

地域に根差しながらコツコツと10年 自分たちも楽しく、健康的に!!

荒廃農地解消実践活動



秦野市荒廃農地解消実践活動が今年度で10年の節目を迎えました。平成13年度に農業委員会の「荒廃、遊休農地の解消と農地流動化の促進」事業として市民ボランティア18名が参加して活動がスタートし、その後、平成16年に「荒廃農地解消市民ボランティアの会」が発足され、これまでに多くの荒廃農地が再生されました。平成21年には、農業委員会や農業者だけでなく、市民ボランティアが参加した荒廃農地の解消活動が高く評価され、第1回耕作放棄地発生防止・解消活動で全国農業会議所会長賞を受賞しました。

荒廃農地解消実践活動では、「荒廃農地解消市民ボランティアの会」が中心となって、荒廃化した農地を再び、農地として利用できるよう、草刈りなどを実施し、再生された農地を担い手農業者や新規就農者等へバトンタッチできるような活動をしています。ボランティアの会では、広報はだの等で公募され、現在では54名の登録者があり、秦野市のみならず、全国的に問題化している荒廃農地を何とかしたいと、高い使命感で熱心に取り組んでいます。

また、高齢化や後継者不足により管理できなくなっているみかん畑があることを農家の方から聞き、ボランティアの会の有志で「みかんの会」を結成し、剪定や収穫の手伝いをし、さらなる荒廃農地の発生防止にも努めています。



地域の市民などを招きサツマイモの掘り取り体験や、地域の小学生による大豆の収穫



楽しみに来場される方もおり、市民との交流も楽しみの一つになっています。

味噌づくり体験なども実施し、地域に根差した活動をしています。地域の方が参加することによって、荒廃農地解消実践活動が評価されることが、何よりの励みになるとのことです。また、毎年11月に開催される「市民の日」

では、解消実践活動の啓発を行っており、解消後の農地でとれたサイツマイモを使った「サツマイモスティック」が大人気で、毎年、活動を長く続ける秘訣は、自分たちも楽しく、そして無理なく行っていくことと話していた初代会長の磯山晴海さんは「今後は、秦野市を訪れた観光客に秦野の素晴らしい田園風景を楽しんでもらえるよう、観光地の付近にある荒廃農地を解消できるような取り組みなど、さらに自主的にボランティア活動を行っていきたい。また、10年たつて会員の高齢化が心配されるため、今後は若い方にも、もっと参加してもらい、全国的にも先駆的な存在のこの会を継続していつてもらいたい。」と話していました。

仲間になりませんか

荒廃農地解消実践活動に興味がある方は、はだの都市農業支援センターまたは、農業委員会事務局へお問い合わせください。
 問合せ先 ☎81-7800
 (はだの都市農業支援センター)

特例適用農地の適正管理のお願い

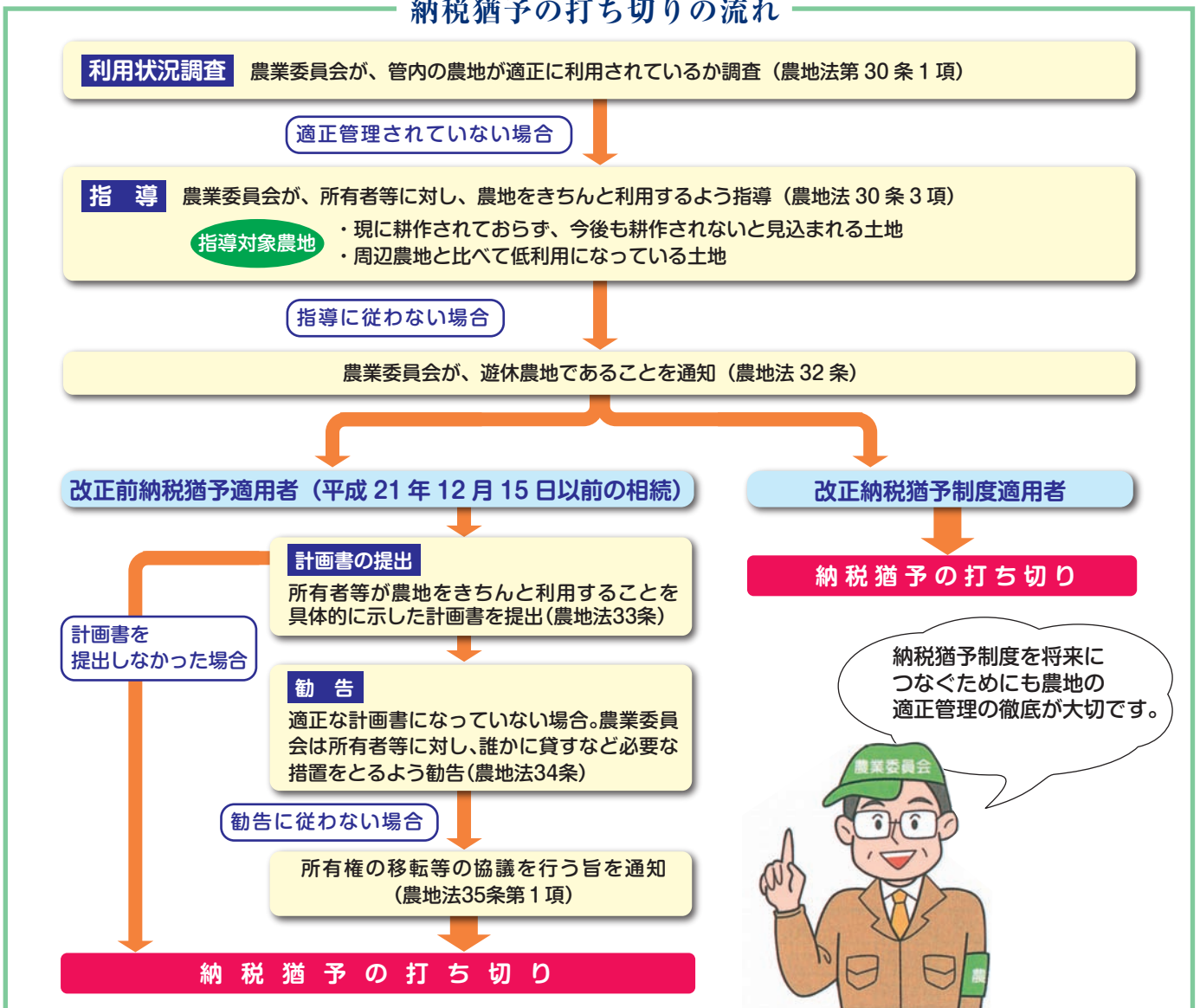
相続税納税猶予制度は、都市農業を守るための農政運動の結果、農業に限って設けられた特例制度です。他業種にはありませんので、批判を受けやすいので、特例適用農地を適正に管理する必要があります。

相続税納税猶予制度は、農地の一筆管理を行っている公的な機関である農業委員会が、制度がなりたつよう、適用農地の日常的な管理・指導を行っています。しかしながら、農地の無断転用の増加、耕作放棄地の増加により、実態の把握が困難になり、制度の存続に影響しかねない事態となってもいます。

こうしたことから、改正農地法により、農業委員会が毎年、農地の利用状況調査を行うこととなりました。適正に管理されていない場合は、指導の対象となり、従わない場合には、「遊休農地」として税務署へ報告することとなり、納税猶予が打ち切られることになります。

相続税納税猶予は、大変有利な制度ではありますが、非課税ではありません。あくまでも納税を猶予することですから、猶予が途中で打ち切られることのないよう、特例農地の適正な管理をお願いします。

納税猶予の打ち切りの流れ



◎相続税納税猶予制度の適用状況（参考）

東京国税局管内（東京・神奈川・千葉・山梨の一都三県）の管理件数は、約 17,000 件で猶予額は約 1 兆 5 千億円。神奈川県での管理件数は、約 6,000 件で猶予額は約 3,225 億円ですので、1 件当たり納税猶予税額は約 5,375 万円となります。

農家の声



思う事

原 節子 (下大槻)



昨年3月11日の東日本大震災からあつという間の一年でした。でも傷跡は大きく、被災された方々はまだ、避難生活之余儀なくされて働くこともままならない今日の現状です。一日も早く元の生活に戻って頂きたいと願うばかりです。

特に同じ農業を営む者として、自分の田畑がなくなる、作ることが出来ない、また作っても出荷出来ない等の色々な問題があり、秦野でもお茶栽培をされている方々に

とつては、辛い一年だったと思います。野菜を作っている我が家でも内心は、いつか放射能の影響が出るのでは、とひやひやしながらの仕事でした。まだまだニュースにのぼる問題（TPPを含め）は沢山ありますが、安心して農作物を作ることが出来、それによって生活できるような環境になって欲しいと思います。

そんな厳しい環境の中、我が家では主に野菜作りをしています。数年前までは市場出荷だったのですが、今は、「じばさんず」や生協への出荷に変わりました。それを機に作る野菜もだいぶ変わりました。今まで作ったことのない野菜、手間のかかる野菜、人に勧められた野菜、自分でも食べてみたい野菜や珍しい野菜などを年間を通して数十種類栽培しています。これらの野菜も天候によって左右され、良く出来ることもあれば、不出来

のときもあり自然の力の大きさを感じます。また、今年のように寒さの厳しい時は、野菜も出来が良くなる、さらに働く私たちも寒さに耐えながらの作業でした。でも「じばさんず」に買い物に来られる方は、秦野近辺のみならず、遠方からもわざわざ来られるとのことですので、そういう方々の為にも試行錯誤しながら消費者のニーズに合った野菜を作っていきたいと思っています。

農業へのロマン

伊藤 隆弘 (菩提)



僕には大学生の息子が2人います。建築や通信技術に興味を持ち、そろそろ就活も始まります。僕の目標は彼ら若い世代の選択肢の一つに農業

が加わることです。彼らが人生を託す職業となりうる農業経営の姿を一つでも提案できればと考えています。僕は以前、コンピューター技師として日々、ライバル各社との技術競争に没頭していました。新技術を創造する仕事は刺激的で充実していました。しかし30代頃から「僕はモノを作り過ぎていて」と感じ始めました。古いモノを廃棄して得られる新しいモノ、捨てる速さを加速することで得られる経済成長は、「豊かさを履き違えているのでは」との疑問が膨らみました。自分なりに出した答え、それは生きる源である「食」を作る農業に取り組むことでした。年々歳々キャベツはキャベツで変わらないモノであるが、常に人間に必要なモノ、それらを作り続ける農業に魅力を持ち、就農しました。僕は新しいモノの創造を否定してはいけません。創造心、競争心、富の蓄積は人間の本能であり人生のロマンといていい。未来永劫、ロマンが人生の活力であ

ることは間違いない。新型携帯電話の開発、オリンピック競技、商売繁盛などはすべてロマンであり、ロマンがあるところに人は集まってきました。僕は業としての農業にたくさんのロマンを提案したい。それが農業に若者を惹きつける術だからです。しかし、「儲かる農業」等、経済社会の価値観に追従するのは愚かだと思っています。「豊かさ」が「高収入」とイコールだと考えてきた経済社会の破綻が、両者がイコールでないことを証明している今、農業が同じ轍を踏むことはない。こだわりの野菜作りに熱中しつつも長期休暇がとれる時間のゆとりを実現する、そんな目標でもいいじゃないか。食の安全も含め、農業には次代の豊かさの価値基準が溢れていると思います。大口を叩きましたが、まずは息子達が魅力を感じる農業を提案できること、それが僕のささやかなロマンであります。

僕には大学生の息子が2人います。建築や通信技術に興味を持ち、そろそろ就活も始まります。僕の目標は彼ら若い世代の選択肢の一つに農業が加わることです。彼らが人生を託す職業となりうる農業経営の姿を一つでも提案できればと考えています。僕は以前、コンピューター技師として日々、ライバル各社との技術競争に没頭していました。新技術を創造する仕事は刺激的で充実していました。しかし30代頃から「僕はモノを作り過ぎていて」と感じ始めました。古いモノを廃棄して得られる新しいモノ、捨てる速さを加速することで得られる経済成長は、「豊かさを履き違えているのでは」との疑問が膨らみました。自分なりに出した答え、それは生きる源である「食」を作る農業に取り組むことでした。年々歳々キャベツはキャベツで変わらないモノであるが、常に人間に必要なモノ、それらを作り続ける農業に魅力を持ち、就農しました。僕は新しいモノの創造を否定してはいけません。創造心、競争心、富の蓄積は人間の本能であり人生のロマンといていい。未来永劫、ロマンが人生の活力であ

相談
コーナー



Q 道路工事のために、農地を一時的に資材置き場として貸して欲しいと話がありました。一時的な手続きは要らないのでしょうか。

A 農地を資材置き場にすることは、たとえ一時的であっても転用の許可（市街化調整区域内）または届出（市街化区域内）が必要です。また、公共工事等で事業地外の農地を仮設事務所・資材置場等に一時的に使用する場合でも同様に許可または届出が必要な場合があります。手続きを怠ると、工事施工者はもちろんのこと、地主である農家も責任が問われ、（農地法により3年以下の懲役または300万円以下の罰金という規定もあります。）納税猶予の打ち切りや、農地転用

選挙人名簿登載者数

「秦野市農業委員会委員選挙人名簿登載申請書」の集計結果をお知らせします。
この登録者は3月31日に確定し、次年度まで据え置かれます。
(3月1日現在)

地区名	世帯数(戸)	男(人)	女(人)	計(人)
本町	96	121	112	233
南	169	218	168	386
東	251	278	227	505
北	197	238	225	463
大根	186	214	190	404
西	263	322	279	601
上	123	142	121	263
合計	1,285	1,533	1,322	2,855

農地の賃貸借情報

平成23年1月～平成23年12月

改正農地法施行後、従来の標準小作料制度が廃止され、新たに農業委員会が過去1年間に実際に締結（公告）された賃貸借契約の賃借料に関するデータにより、賃借料情報を提供することとなりました。

平均的農地賃借料（10aあたり）

区分	平均額	最高額	最低額	データ数
田	10,100円	17,200円	6,000円	14
畑	10,100円	30,000円	3,900円	60

*データ数は、集計に用いた筆数です。
*平均的賃借料は、算出結果を四捨五入して、100円単位としています。

許可を含め農地法の許可などを受けることができなくなることもあります。

こうならないためにも、農地を貸して欲しいなどの話が あった場合は、まずは地元の農業委員会か農業委員会事務局にご相談ください。



市街化調整区域内の転用申請許可は毎月10日まで、市街化区域内の転用届出は随時受け付けています

- 農業委員会活動報告**
(平成23年11月～24年2月)
- 総会
11月25日、12月26日、
1月25日、2月27日
 - 表のとおり
(主な審議案件と件数は下表のとおり)
 - 運営委員会
11月15日、1月19日、
2月17日
 - 編集委員会
1月25日、2月27日
 - 神奈川県農業委員大会

- 11月11日 海老名市文化会館
- 中地方農業委員会連合会視察研修会
11月22日 JAよこすか葉山直売所「すかなごっこそ」、三崎港産直センター「うらり」、長井海の手公園「ソレイユの丘」
- 中地方農業委員会連合会研修会
2月3日 秦野市文化会館

総会の主な審議案件と件数（11月～2月）

審議案件	件数	面積
耕作目的の売買・賃貸 (3条許可)	7件	7,829.00㎡
市街化調整区域内の転用 (4・5条許可)	12件	6,130.32㎡
市街化区域内の転用 (4・5条届出)	75件	26,944.05㎡
相続税納税猶予	9件	34,599.09㎡

2月4日(土)に秦野市農協本所において、市内の農業者、消費者、観光、商工業者や学校、県の関係者など様々な分野から約80名の方々が参加し、「はだの都市農業フォーラム2012」が盛大に開催されました。

当日は、本市の農業の現状や地産地消の取り組み状況などが説明された後、昨年の「第64回秦野たばこ祭」で初めて実施し好評であった「秦野の農村レストラン」をテーマに、農産加工品の製造に取り組む農家の人達が地場農産物をふんだんに使った、筍ごはん、桜

の天よせ、落花生コロツケなどの手料理を参加者に提供しました。

参加者は、料理を囲みながら、市内の農産加工品の紹介や本市の農家が永年にわたり育んできた食文化について、自由に意見交換をしました。

料理を提供した農家の人達からは、「消費者の方と直接話す機会をもうけていただき、和らいだ雰囲気の中で意見の交換ができた」と感想を話していました。

生産者と消費者との交流

はだの都市農業フォーラム 2012



プラスアルファの安心を 農業者年金にご加入を

国民年金だけで十分ですか？

平均的な毎月の生活費として、夫婦で23万円が必要になりますが、そのうち13万2千円を国民年金で賄うとして、残りの10万円をどのように準備するかが課題となります。



そこで、「農業者のための年金」を活用しませんか！

農業者年金は…

☆年金は生涯支給されます。しかも80歳までの保証付き終身年金です。

☆少子高齢化時代に強い年金です。

自分の年金の財源を自らが積み立てる、安定した年金制度です。

☆所得税・住民税が節税になります。

保険料は全額、社会保険料控除の対象

☆次の要件を満たす農業従事者なら誰でも加入

- ①20歳以上で60歳未満の方
- ②年間60日以上農業に従事
- ③国民年金の第1号被保険者

また、農地を所有していない農業者や家族従事者も加入することができ、脱退についてもいつでも自由にできます。

■問い合わせ

農業委員会事務局 82-9654
 秦野市農協共済課 81-7715



カメラ スケッチ



2月14日、秦野市地域ブランド育成事業の開発部会(スイーツ部門)が秦野商工会議所で開催され、落花生・八重桜・イチゴを使用したドーナツの試作と、パッケージの検討が行われました。



かわいらしいハート型のドーナツです。



棒を付けて歩きながらでも食べやすいように工夫をしました。



秦野市では、平成22年度からブランド創出と同時にPR活動や販路拡大活動により秦野市のブランドイメージを構築し、地域経済の活性化に繋げるため、商業・農業・観光の関係団体が、一体となって地域ブランド事業への取り組みを行っています。

編集後記

一月下旬のある寒い朝、急に息子が学生時代に下宿させてもらえなかったことを話して、「お金には替えられないものが沢山あったの。」と言いました。その言葉を聞いて「農業も同じだよな。」と私は独り言のように呟きました。

多くの若い人が夢と希望を持って就農し、生活設計が立てられる農業であつたらと願ってやみません。

(編集委員 清水富美子)